

す状あ催でてメ言のしふたに服い解とだホた。すのいま出
で眠て。んっダがち。っ横生てをん心もしでたまりい
の催しすせ入も彼たたていを学え眠な安中まのっし外思
たとそでまにてと分しって彼やる催でう連いたまてあ
自然。のけ態し。」自ま言っトふ、いも。てっしせかす
て自すた解状と。、リとなはーもでう、たいかて失の前
っ、でめも眠ういはやく達コで死ぐはしつ早っもも
まにの始て催こ寒達て寒ど私、れ必分私まをだな色いの
集時うえっい解「私けだひにそく20。見息また顔い分
ものまる思深が。かまんで上。か、すをぬは失のら自
っそしふとて人すたにもたこのたにてでなたれ裏達た。
いは、てほう分他でし彼でんそそしとしのん、そ憶私した
とは、彼こ自、のまをれだ。ま、をたみて、記。処した
るA入、解。いたしトそもすてけでかいし、た対で
な、にほをたまたっ出一しえでせかの努解思とかはしうん
にが態る眠ししだっコかるのさをたぐかとし彼でどせ

、男生を、もてが。れたうっ間とな
はでく憶のつ日すたらっ使折週のに
度死度記のい子でしじなにと一緒
今必程のも、ので信に時ッ、ど一
。にる)たて2た変、うのキももと
す事あいいしい。っくはよ縫ボカに憶。眠
でるでらはてたなな彼す裁での全記た催す
のせ分く功ししたにと、出、手そ完のし、で
たさのい成とま彼ここにと函。が中まはの
いど教なにッのいの間”ん、す憶間い達た
ても。でのて通、の力なをで記のま私
っりたがす〜っ普はそカ。みの、そし、な
なとし障とオ違か位、バたさうで、て後く
くをま支もボとと間て”しはまいにっのな
な憶しにりだ彼ん週しいでちしら時なこら
せ記カ活とまのなノそなの裁てぐ同く、や

—おわり—